

三年学年だより

No. 2

5月号

令和7年5月発行

301HR

限られた時間をいかに使うか

3年生です。受験です。学年の最初の時期なので、気楽な話をしようと思いましたが、1組の担任として学年全体に発信できる場がこの機会しかないなので、真面目に話します。

2026年度の共通テストは、令和8年1月17日（土）と18日（日）の2日間に渡って実施されます。5月1日時点で、共通テストまでざっと260日ほどあります。当日から逆算して、どのくらい時間をかけることができるのかを一度考えておくとよいでしょう。

時間をかけて勉強に取り組むという「量」は、絶対的な指標だと思います。よく「量よりも質」と言われますが、それにかまけて時間をかける必要がないと考えるのは、誤りではないかと思います。例を挙げると、国公立大学の2次試験における数学の試験時間は、一般的には100分～150分です。およそ2時間も休みなく闘うのです。理科や英語が課されることもありますので、トータルの時間に耐え切る体力と集中力が必要です。よって、絶対的な「量」が必要になると言えるでしょう。特に理系教科の記述式の問題や英語の長文などは、じっくりと時間をかけて取り組む癖をつけてほしいと思います。もちろん「質」も大事です。ただ写すだけの作業は勉強ではありません。ミスの原因をよく探り、成功につなげてください。数学なんかは最たる例です。読むだけ、見るだけはもったいない！手を動かして、いっぱい書け！いっぱい解け！また、勉強時間に1日あたり1時間の差があるとすると、今日から共通テストまでの約260日間で、約260時間の勉強量に差ができることになります。約260時間あれば相当なことができるはず。1日をどう過ごすか、改めて考えてみましょう。

その1日にどれくらいの時間をかけることができるのかを「引き算」で考えてほしいです。1日の24時間から睡眠や食事などの日常生活の時間と登下校や授業など学校生活の時間を引いた時間は何時間あるでしょうか。平日であれば多くても7時間くらいでしょう。無駄なく時間を使うには、ギリギリまで学校に残って勉強したり、隙間時間を利用したり、方法はいくらかでもあるはずです。

努力は必ず報われるわけではありませんが、成功している人は必ず努力しています。この1年くらい、夢に向かってなりふり構わず必死に勉強してくれることを期待します。（301HR担任）

8時20分からの朝読書は、10分間の読書を通して心を落ち着け、一日をより充実したものにするために実施しています。近年、この朝読書が静かに行われない状況が増えています。具体的には20分を過ぎてから入室してくる生徒や、20分以降にトイレ等で教室から出ていく生徒が多く、静かな雰囲気が壊されています。

新年度になって、皆さんは静かに朝読書に取り組んでいるでしょうか？8時20分に読書が始まっているということは、些細なことかもしれませんが、非常に大切なことです。ギリギリの時間に家を出て、慌ただしく登校し、校門で指導を受けて始まる一日と、少しのゆとりをもって行動し、静かに読書に取り組んだのち始まる一日の、どちらが充実した一日になるでしょうか？

大学に合格するためには必死に学習に取り組むことはもちろん必要です。しかし、その前に生活を安定させることが不可欠です。毎日、8時20分に全員がそろって読書をしている、各クラスがそんなクラスになれば、より多くの人が進路を実現していけるとと思いますよ。（301HR副担任）